

北区医療介護サポートセンター キタールさんからのおたより NO. 12



発行者：北区医療介護サポートセンター
〒651-1243 神戸市北区山田町下谷上字池ノ内4-1箕谷会館2F
Tel:078-583-3299 Fax:078-583-3298
Eメール:kita-zaitaku1-c1@siren.ocn.jp
キタールさん：令和7年度神戸市北区キャラクター使用承認 第13号



済生会兵庫県病院

そうだ ひろお
病院長 左右田 裕生

★箕谷会館ご案内★

箕谷会館は
1階が
北部休日急病診療所
2階には
北区医師会
北区歯科医師会
北区薬剤師会
が入っています。
北区医療介護サポート
センターは2階です。

アクセス
箕谷インター近く。
スーパーマルハチ箕谷
店南向かいです。
神鉄箕谷駅から徒歩6
分。駐車場あり。



済生会兵庫県病院 左右田 裕生 院長にインタビュー

2023年時点で、神戸市北区における65歳以上の高齢者人口は全体の22.4%を占め、2025年には31.4% (68,697人)と急激に上昇しました。このように神戸市全体で救急搬送された高齢者の割合は年々増加し、特に転倒による救急搬送が顕著に増えています。高齢単身世帯の増加も深刻な課題で、医療サービスから切り離される高齢者が増える懸念があり在宅医療での孤立防止と地域医療体制の強化が求められます。今後も増加傾向は続き、北区の総人口は減少傾向にある一方、2040年には高齢者人口は42.0% (71,426人)になると推計されています。特に入院受療率の高い75歳以上の人口の増加により、急性期の高齢者入院患者数は2040年がピークになると見込まれます。

高齢者人口が増加するのに伴い、慢性疾患や急性疾患を有する高齢者が増えるため、高齢者救急の需要がさらに高まります。特に心疾患、脳血管障害など高齢者特有の救急疾患に対する対応が求められます。そのためには、救急医療における搬送体制の更なる確保が非常に重要となりますが、北区は東西に長く広くて交通の便が悪い場所も多いため、迅速な搬送が難しい場合が想定されます。北区内における適切な救急車の配備や医療施設への昼夜を問わないアクセスの改善が必要になると考えます。

また、病院は救急医療体制の充実だけでなく、地域の診療所や介護施設との連携が不可欠で、北区の医療資源をフルに活用し、それぞれの役割を明確にすることが求められます。特に高齢者は医療と介護が密接に関連しているため、両者の連携を一層強化する必要があります。また、救急医療における適切な選択のために、市民に対する啓発活動も重要で、高齢者自身や家族が救急医療を適切に利用できるように情報提供を行うことが肝要です。

以上、医療・介護施設、行政そして地域コミュニティが連携して高齢者を支えるための包括的な取り組みを強化していくことが、高齢者救急の問題を解決する鍵になると考えます。

★活動報告★

市民啓発

「人生会議をしてみませんか？」



かねてホームケアクリニック顧問・関本雅子先生をお迎えし、「息子との最期の時間～私たち家族が大切にしたいこと～」についてご講演いただきました。緩和ケア医であり、母として最愛の息子さんを看取られた経験から、「家族がどのように向き合い、何を大切にしてきたのか」を丁寧に語っていただきました。

参加者からは、「聞いてよかった」「今後の支援に生かせる」「自分自身の人生にも向き合いたい」といった声が多く寄せられ、ACP（人生会議）を“自分ごと”として考えるきっかけになった方が多かったようです。講演では、

- ・本人の気持ちが整うまで無理に進めず、日常の対話を通じて寄り添いながら待つこと
- ・介護の話題は一度だけ問いかけ、拒否されたら深追いはしないこと
- ・人生観や価値観の話から自然に対話を広げること
- ・症状の変化時は、ACPを再度話し合う良いタイミングになることなど、日々の支援にすぐに生かせる視点が紹介されました。また、市民からは「家族に後悔を残したくない」「話すことの大切さは分かるが、どう切り出せばよいか悩む」といった率直な声が寄せられ、ACPの必要性と難しさの両面が浮かび上がりました。

研修会

「ACP実践報告会～医療・介護現場からの取り組みと課題共有～」

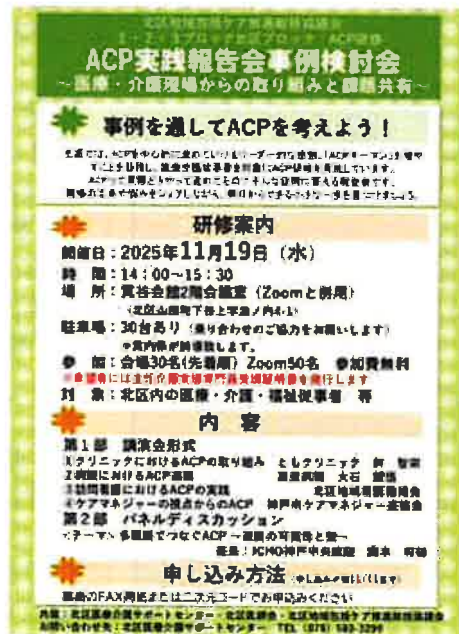
11月19日、「ACP実践報告会～医療・介護現場からの取り組みと課題共有～」を開催しました。会場とオンラインあわせて55名が参加し、医師・看護師・薬剤師・ケアマネジャーなど、さまざまな職種の方が集まりました。

第1部では、クリニック、病院、訪問看護、ケアマネジャーの立場から、日々のACP（人生会議）の取り組みが紹介されました。日常の会話を大切にしたい関わりや、病院と地域が協力して意思決定を支える工夫、在宅での看取りを支えた経験など、現場ならではの温かい実践が共有されました。

第2部のパネルディスカッションでは、「多職種でつなぐACP」をテーマに意見交換が行われ、情報共有の大切さや、ACPを広げていくうえでの課題が語られました。参加者からは「楽しみを聞くことから始めたい」「チームで支えていきたい」といった前向きな声が寄せられました。

また、この内容はYouTube研修として1月19日～2月27日に公開し、80名の申込に対して再生回数は152回と、多くの方に視聴いただきました。忙しい職種でも自分のペースで学べる点が好評で、「理解しやすかった」「業務に役立つ内容だった」との声が多く寄せられました。

今回の報告会を通じて、ACPを地域で支えていく大切さを改めて感じる機会となりました。これからも、対面とオンラインの良さを生かしながら、多職種で学び合える場づくりを続けていきます。



★今後の予定★

今後の予定は医療介護サポートセンターのホームページに掲載しています！
 ホームページ：<https://kobe-iks.net/area/kita>
 ホームページをチェックして、ぜひ研修にご参加ください。

